

## 麻しんについてのQ&A

Q1. 生後6ヶ月未満の乳児でも接種可能ですか。その場合、副反応についてはどうなりますか。

A1. 生後6か月未満の乳児は、移行抗体（胎盤を通じて胎児に与えられた抗体）があるため、接種の必要はありません。

Q2. II期接種前の年齢（2歳～5歳）ですが、予防接種を受けても大丈夫ですか。

A2. 接種は可能ですが、任意（全額自己負担）での接種となります。  
※II期接種対象者：5～7歳未満で小学校就学前1年間（就学前年度4/1～3/31）

Q3. I期、II期どちらも接種していない場合、これから2回接種してもいいですか。その場合、接種の間隔はどうなりますか。

A3. できるだけ、早く予防接種を受けることが重要です。  
流行時は、2回目の接種時期は1回目接種後より1ヵ月間隔を開けて接種することが可能です。  
麻しん流行が終息した時には、1回目から数年の間隔を開けて接種したほうが、より麻しんの免疫ができる割合が高まり、感染予防に効果が上がります。

Q4. I期は未接種、II期は接種済みです。1回しか接種していないので、あと1回接種したいのですが、接種可能ですか。  
接種する場合、II期接種後からどのくらいの間隔で接種したほうがいいですか。

A4. 可能ですが、あと1回の接種は任意接種（全額自己負担）になります。  
接種の間隔は、1ヵ月以上の間隔を開ければ接種可能です。

Q5. 予防接種後、どのくらいで抗体が付きますか。

A5. ワクチン接種後、血中抗体は2週間から出現するといわれています。

Q6. 麻しんの予防接種は、必ず2回接種しないといけないのですか。

A6. 2回の接種を受けることで、1回の接種では十分に免疫がつかない方もいるため、2回の接種が必要です。

また、接種後、時間の経過とともにその免疫が低下してきた人に対して、2回目の接種で免疫をより増強させる効果があります。

Q7. 予防接種は何回まで接種していいのですか。

A7. 基本は2回ですが、仮に3回以上接種しても、問題はありません。  
抗体価がさらに上がり感染予防には効果が上がるとされています。

Q8. 妊娠中、妊娠の可能性があります。予防接種を受けることができますか。

A8. 妊娠中、または妊娠の可能性がある方へは、予防接種はできません。  
不要不急の外出を控え、人混みをできるだけ避けるようにしてください。

Q9. 熱があります。どうしたらいいですか。

A9. 麻しんは、風邪症状（発熱、咳）と似たような症状がありますが、発熱だけでは麻しんとは判断できません。  
38℃前後の発熱が2～4日続き、倦怠感、上気道炎症状（咳、鼻みず、くしゃみ）、結膜炎症状（結膜充血、目やに、光をまぶしく感じるなど）が現れ、その後、再び高熱（39℃以上）とともに発疹が出現します。  
熱が出た場合には、学校や会社への登校、出勤を控え、自宅で休養を取ってください。症状が悪化した場合には、医療機関を受診してください。

Q10. 麻しんにかかったことがあるかもしれません。予防接種をしたほうがいいですか。

A10. 麻しんにかかったことがある場合には、成人になっても十分な抗体を保持していることが多いため、麻しんの予防接種は必要ありません。  
はっきりわからず、抗体があるか確認をしたい場合、抗体検査（全額自己負担）で確認をすることができます。  
抗体があれば接種不要、抗体がなければ予防接種を受けることをお勧めします。

Q11. 麻しんにかかったかどうかわかりません。予防接種履歴もわかりません。どうしたらいいですか。

A11. 抗体検査で確認をするか、もしくは、抗体検査を受けずに予防接種をされても構いません。ただし、任意接種（全額自己負担）になります。